



全世界に出て行って、 すべての造られたものに 福音を宣べ伝えよ

マルコによる福音書 16:15

オハイオ州ダブリンバプテスト教会日本語チャペル牧師
杉田 政志師

主イエス様が十字架の死から甦られて弟子たちに伝えた最も大切な使命は、全世界に出て行って全ての人々にグッドニュースを伝えることでした。それは、今日でも全てのグッドニュースを聞いて信じた人々に与えられている使命であり、教会が存在する理由もこの使命を全うするためであると言っても過言ではありません。パウロはグッドニュースの内容を第一コリント15章1節から11節の中でこのようにまとめています。①キリストが聖書の預言通りに私たちの罪のために死んだこと。②そして墓に葬られたこと。③聖書の預言通りに三日目に甦られたこと。④そして使徒たちや500人以上の弟子たちに現れてパウロ自身にも甦られたキリストが現れて今日も共におられること。キリストの十字架の愛を体験して神様の救いのご計画を学んだ人にはこのことがグッドニュースであることは理解できますが、初めて聞く人にとってははっきり言って何のことだかわかりません。グッドニュースとは聞く側がその内容をグッドニュースだと理解した時にグッドニュースになるのです。

主イエス様が命を捧げて私たちに伝えて下さったグッドニュースの内容を私なりにまとめてみます。①人生やり直しがききます。人生はいつだってやり直しが効くように神様が道を整えて下さいます。この道を救いと言います。キリストは十字架上の犯罪人に人生のやり直しを提供し、主と共にパラダイスにいる道に導かれました。あなたの人生に手遅れはありません。グッドニュースは私たちが愛と光に満ちた命の道を選びたいならば、いつだってやり直しができることです。②何があっても大丈夫。敵意と仲間からの裏切り。権力による弾圧と不当な裁判。そして冤罪による十字架での処刑。どれをとってもこの世で起こりうる最低最悪の体験をキリストは通られました。そして最後まで全てのことを父なる神様に信頼して愛と光として生きられたのです。神様は神様に信頼して従う人の全ての体験をプラスにすることができます。そして全ての困難の中には通過できる扉があり、また全ての試練の中には祝福の種がちゃんと入っているのです。キリストの最低最悪の体験



は今日私たちに最高最善の救いの道として開かれています。イエス様が全世界に行き伝えてよと言ったグッドニュースは、「あなたの人生で何があっても大丈夫」。③あなたは豊かな実を結びます。イエス・キリストは一冊の本を書いたことなく、また海外に宣教旅行したこともありません。全ての働きは弟子たちに託されたのです。神様はあなたを罪から解放し天国を約束されましたが、最も大切なことはグッドニュースで救われた人がこの地上で神様の働きをして愛と光として生きることです。あなたが豊かな実を結ぶために必要なことは全て与えて下さり、全ての状況の中であなたを平安で満たし守って下さいます。「あなたは私以上の働きをします。私がいつでもあなたを応援しているからです」(ヨハネ14:12)。あなたは世の光として創造され、神様の子供としての自覚を持って生きる道をイエス様が完成して下さいました。これがグッドニュースであり豊かな命を生きる道です。④あなたの人生は益々良くなります。12人弟子たちから始まり3年後には500人以上の信者に膨れ上がり、その中には最悪の敵対者さえも愛と光で導いて最高の宣教師として変えてしまうキリストの愛。主につながる全ての人の人生は幸せから始まり、より幸せな人生へと導かれます。そして全ての人に必ず訪れる死でさえも、光と希望で満たして下さいます。全ての事には季節があり全ての働きには時があります。そして私たちの人生の全工程は、全て時になくなって美しいのです(伝道の書3:1-11)。そして神様は最高の人生を最後にとっておかれています(ヨハネ2:10)。キリストが全世界に出て行って伝えてよと言われたグッドニュースによって、「あなたの人生はこれから益々良くなります」。弟子たちの中で私たちのように聖書を持つ人は一人もいませんでした。だからこそシンプルにキリストの福音を伝える事に専念したのです。福音を伝えるのに神学校に行く必要はありません。必要なのはあなたが神様のお約束されたグッドニュースを体験する事です。そして体験された事実を必要とされている方に伝えることを伝道、宣教というのです。ご一緒に神様の愛の内に生きて周りの人々にグッドニュースを伝え続けましょう。

「最も小さい者たち」のために 一札幌にて

井上 未来 JEMS宣教師



私たちは、2019年3月JEMSに加入し、9月から札幌で宣教師として活動を始めました。夫、スティーブは、ダラス神学校を卒業後来日し、20年間英会話教師や福祉の仕事しながら宣教の働きをしていました。私、未来は、大学で福祉を学び、老人施設に勤務した後、関西聖書神学校で学び、牧師として働く中で、福祉宣教のビジョンを持つ夫と結婚に導かれました。現在は、二人の娘と1歳半の里子が与えられ、日々賑やかに過ごしています。

私と夫は、異なる国、環境、文化の中で育ってきましたが、共通点がありました。一つはアメフト好き、もう一つは、子どもの福祉に重荷を持っていることでした。夫は独身時代、広島の子童養護施設に住み込んでボランティアをする中、子どもの福祉に思いを寄せていきました。私は大学の時に、児童相談所で実習をする中で愛情とケアを必要とする子どもの魂と向かい合うようになりました。結婚を期に、神様は私たちに改めてこの使命に献身することを示してくださいました。

私は、二人の娘を地元から離れた土地で出産し、母親がケアされていくことの大切さを学びました。日本では「ワンオペ育児」という言葉が聞かれますが、育児の負担はほぼ妻が担います。育児の大変さに追い詰められ、産後うつや育児ノイローゼになった母親たちがいます。虐待の件数も急速に増加しています。私自身は、教会の子育てサロンや子ども食堂の働きに参加できたため、たくさんのケアを受けることができ、恵まれました。

そんな経験から、私には教会で「子ども食堂」を開きたいというビジョンが与えられました。しかし宣教師として働き始めた頃、コロナの大流行が始まり、この状況下で何をすべきかと悩みましたが、障害者支援を

通して同じビジョンを分かち合っていたホープ札幌教会の牧師先生から励ましをいただき、コロナ禍の今こそ困っている家庭、子どものために、お弁当配布からでも食堂を始めましょう!とお誘いを受けました。教会は、ある程度の人数が食事をする環境が整っていますので、子ども食堂を開始するには最適な場所です。しかもホープ教会は、障害者事業所で毎日30人ほどの手作りの食事をしていますので、環境は全て備えられていました。

2020年11月から毎月2回、「ホープ食堂」が開店しました。驚いたことは、一番多くお弁当を配布したのは、2020年の大晦日でした。シングルマザーの家庭の利用者が多く、時には忙しいお母さんに代わって、お子さんが一人で家族分取りに来られることもあります。私たちがこの働きの土台とする御言葉は、「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです」(マタイ25:40)です。聖書には、繰り返し「孤児」や「やもめたち」の世話をしなさいと語られています。主の御心を胸に、多くの祈りと協力によって働きをさせていただいています。

もう一つの働きは、養育里親の働きです。児童養護施設や児童相談所でたくさん子どもたちと出会ってきた私たちは、結婚当初から里親という働きについて祈っていました。2019年9月宣教師として活動を始めてすぐ、クリスチャンの里親の紹介で児童相談所と面会し、研修を開始し、翌年3月に養育里親として登録しました。コロナ禍のため、一般的な保護先である乳児院等の施設での受け入れがストップされたため、すぐに赤ちゃん委託の連絡が来ました。5月

上旬、わが家に初めての里子がやってきました。日本では、里親の担い手が少なく、要保護児童4万5千人のうち里親の元で暮らしているのは、わずか15%だけです。私たちにとって、里親のリクルート活動、クリスチャン里親との祈り会は働きの大きな柱となっています。わが家の幼い里子の成長を見る時、神様がその命を守り、私たちのところまで届けて下さったことは奇跡としか思えません。また、何より里子の幸せを祈る中で、産んでくれたお母さんを思い祈られます。お母さんへのケアは、子どものケアに直結することを実感するばかりです。

これからは、コロナ禍で困窮している家庭や子どもたちに寄り添いつつ、コロナ収束と共に食堂を再開し、学習支援や生活相談、御言葉による励まし、福音による一人一人の魂の救いを期待しつつ、働いていきたいと願っています。

またホープ食堂を利用されている方々と少しずつ関わりが深められてきていますので、その方々が物質的な支援のみならず、霊的な満たしを求めて神の家族に加えられまようようにお祈り下さい。

同時にクリスチャン里親のネットワークを広げ、委ねられている里子のための祈りや里親リクルート活動を様々な教会と協力してゆくことが出来るように祈ります。

日本ではまだまだ少ないクリスチャンの里親が起こされることをお祈りいただきたいです。主人は、市から委託された里親リクルート事業の部署でパートタイムの働きもしています。その働きを通して、クリスチャン里親ネットワークがますます広がることを祈り願っています。

英語と日本語のブログ:
<https://gospel2hokkaido.wordpress.com/>
献金先:
<https://jems.networkforgood.com/projects/51721-japan-missions-stephen-miku-inouye-hokkaido>



Steve, Miku, Amana, and Emma Inouye

東日本大震災から10年 石巻の人々の魂を癒したまえ

カリーナ ケンモツ JEMS宣教師

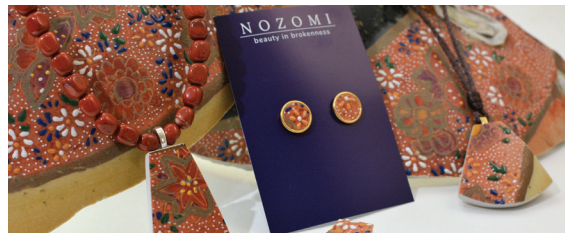
2011年3月11日、巨大な地震が日本を引き裂きました。大きな津波が東北地方を襲うという事は予見されていましたが、その規模の大きさや凄まじい速度をだれもが予測することはできませんでした。そしてそれは想像を絶するものとなりました。日本の歴史上最大の地震でした。今まで見たこともない破壊と死者をもたらしました。16000人ほどの死者と2500人以上の行方不明者がでました。120000軒の建物が全壊し、250000軒の家が半壊しました。経済的損失は約1兆9000億に上りました。まるで虚構の世界の出来事に思えますが、不幸にもそれは現実のことでした。

ボランティアの人達の対処は素早いものでした。彼らは肉体的・物質的な必要をまず満たそうとし、次に精神的・感情的な飢えへ対応されました。そんな活動の中から、「のぞみプロジェクト」が生まれたのです。神様は幅広い工作技術をもつた皆さんの人々の心に深い憐れみを示してくださいました。ある人達はビジネスの洞察力に優れ、あるいはネットワーク技術に長け、一方、他の人達はゼロからコンピュータープログラムを作り上げました。しかもある者たちは、ビジネスの種を播く方法さえ知っていました。それは壊れた陶器を宝飾品に作り変え、のぞみ(Hope)共同体の場を築くために石巻の女性たちを雇うことでありました。

最初のボランティアたちは北アメリカから

の人達でした。それゆえに、最初はのぞみプロジェクトのお客さんたちは、北アメリカに集中しました。イエス様は、長い歳月を通して私の日本への愛を育ててくださいました。私は、市場開拓の仕事を通して得た技術が神の王国でも用いられると考えました。2年半前に石巻に移り、今はのぞみプロジェクトで半分働き、後半分はソフトの会社にリモートで働いています。私はのぞみでは英語を話すお客さんと接し、市場促進のデータ入力をしていますが、私の新しい日本の友人や同僚の観点から物事の推移をみることを教えられています。この作業はある種の困難を伴いますが、多分これこそそのぞみの大きな活力の源となっているに違いありません。北アメリカと日本の独自性の融合がビジネスの新機軸へと導かれてゆくものと思われます。

大惨事から10年が経ち、今は外見上ほとんど痕跡をとどめなくなっています。新しい防潮堤、ビルや家が景色を変えました。しかし心の中には絶えず葛藤が生じることに気づかれます。朽ちることのない災害への思いが深いトラウマとなって残ります。



キリストへの愛が魂を癒す力となって甦っていくことを祈るばかりです。私にとってのぞみプロジェクトの女性たちは、もはや宣教師のニュースレター飾る話の一つではないのです。今私は一人一人の顔を浮かべ、彼女らの笑い声を耳にし、新しい髪形をほめられた時の笑顔や子供たちを得意げに自慢する婦人たちが見えます。毎年2月から3月に変わりとうるとき、彼女らは、ニュースを見ることを避けはじめます。思い出したくないのです。私の心は痛みます。私はこの原稿を2月に書いています。ゆえに彼女らの例年の反応が、10周年記念となるこの3月に良きにつけ悪きにつけ、安堵と鋭い痛みの中に放り出されることを間のあたりにするのです。どうかキリストが今年は少し違った形でこの時を用いますようにお祈りください。のぞみプロジェクトに新しい方法が導かれ、聖霊が彼女ら一人一人の魂に向かって語りかけ、石巻を越えて神様が癒しと復興をより深く成し遂げてくださいますように祈ってください。

献金先: <https://jems.networkforgood.com/projects/50299-japan-missions-karena-kenmotsu>



JEMS 日語部

コーディネーター 藤本 三奈子

昨年、時報イースター号を発行・発送した直後に、自宅待機命令(Stay at home order)がカリフォルニア州に出され、JEMSオフィスも在宅勤務に移行しました。今号は1年ぶりとなりましたが、紙面を刷新して発行・発送できることを嬉しく思い、感謝しております。

他の働きも計画していた3月以降の集会、セミナー、修養会などは全てキャンセルとなりましたが、オンラインでの働きへと主は導いて下さいました。昨年の7月より、巻頭メッセージを書いて下さった杉田政志牧師によるZOOM茶話会を月に2回持っています。毎回20名以上の参加者が与えられ、参加者の皆さんがメッセージから励ましを受けています。また、8月下旬には南加連合と協力をさせて頂き、小学生を対象にしたオンラインにほんごバイブルキャンプをスタートすることができました。1年生-3年生の低学年グループと4年生-6年生の高学年グループの2つに分け、昨年はそれぞれのグループが隔月に行っていましたが、2021年は両グループの毎月開催を予定しています。どちらの集会もZOOMということで、アメリカ各地や時には日本からの参加があり、オンラインでの特色を生かし集まっています。今後もオンラインでの働きを主が導き、祝福して下さるようお祈り下さい。また、日語部の働きが継続されますように経済的支援をよろしくお願い致します。

オンライン集会の案内(予定変更有) 問合せ: minakoF@jems.org 藤本まで

杉田政志師茶話会: 毎月水曜日1回と土曜日1回 午後4時から(西海岸時間)

にほんごバイブルキャンプ: 低学年: 毎月第3の週末 / 高学年: 毎月第4の週末



**JAPANESE EVANGELICAL
MISSIONARY SOCIETY**

948 East Second Street
Los Angeles, CA 90012-4317
Tel: 213.613.0022
E-Mail: info@jems.org
Web: www.jems.org



JEMS - 日本語部 支援 : NICHIGO-BU SUPPORT

- 日本語部とスタッフのためにお祈りいたします。
- 日本語部の働きのために 毎月 \$ _____ 捧げます。(_____ 月 _____ 年まで)
- 今回 \$ _____ 捧げます。

Name _____ Phone _____

Address _____ City _____ State _____ Zip _____

E-Mail _____

チェックのあて先はJEMSとお書き頂き、Memo欄にNichigoとご記入下さい。

948 East 2nd Street, LA CA 90012-4317 電話: 213-613-0022

※オンライン献金 <https://jems.networkforgood.com/projects/10875-minako> もご利用頂けます。



編集後記

西原 黎子

一年間の空白を経て、時報が再開されたことを嬉しく思います。
コロナ禍の中で、お一人お一人が色々工夫されてお過ごしのことと思います。私は急激に静止の世界に紛れこんでしまったような戸惑いを感じておりました。自分でどこに行き、何をすると決め、自分で時間を支配していたような思いでいたことは錯覚にすぎなかったのです。それどころか、自分の一挙手一投足が神の支配の中で動いていたのだと思うと、息をひそめて主のみ言葉を深く探し求めたいと願う心に時間がゆっくりと動きはじめています。

